

高校生議会 会議記録

日 時 平成29年 8月 9日 (水)

開会時間 午前 9時27分

閉会時間 午前11時49分

場 所 加賀市役所 議場

議 長

高校生議長 山本 恵 亮

質 問 者

高校生議員 菅 大 希

高校生議員 山 廣 彪 吾

高校生議員 黒 木 真 衣

高校生議員 熊 岡 美 海

高校生議員 西 出 大

高校生議員 馬場先 千 紘

高校生議員 藤 井 鵬 旗

高校生議員 西 出 多 希

高校生議員 堂 野 悠 斗

高校生議員 簾 和 馬

高校生議員 アングロ・リュウ

高校生議員 庄 源 優 誠

高校生議員 中 道 唯

高校生議員 宮 永 杏 莉

高校生議員 山野下 菜 々

補佐役議員

議 長 谷 本 直 人

副 議 長
(司 会) 稲 垣 清 也

議 員 上 田 朋 和

議 員 乾 浩 人

議 員 辰 川 志 郎

議 員 中 谷 喜 英

議 員 田 中 金 利

議 員 林 直 史

議 員 宮 崎 護

議 員 高 辻 伸 行

議 員 今 津 和喜夫

議 員 岩 村 正 秀

議員 林 茂 信
議員 吉 江 外代夫
議員 川 下 勉

議員 林 俊 昭
議員 新 後 由紀子

答 弁 者

市 長 官 元 陸
副 市 長 河 合 篤 史
総 務 部 長 菅 本 昇 司
健康福祉部長 高 川 義 博
経済環境部長 藏 喜 義
上下水道部長 西 野 主 税
秘書課長 山 田 圭 一
医療センター
管理部長 河 本 正 巳
教 育 長 山 下 修 平
消 防 長 山 根 真 一

副 市 長 山 下 正 純
会計管理者
兼 会計課長 出 口 千恵子
市民生活部長 代 工 雅 子
観光戦略部長 中 村 誠
建 設 部 長 眞 田 茂 樹
山中温泉支所長 荒 谷 啓 一
財 政 課 長 柴 田 義 徳
監 査 委 員 長 表 雅 裕
教 育 委 員 会 長 梶 谷 清 裕

会 議

開会挨拶
高校生議会
講評

会 議

開 会 挨拶

○稲垣副議長 それでは、定刻となりましたので、加賀市高校生議会を開催いたします。

開会に先立ちまして、谷本加賀市議会議長が御挨拶申し上げます。

○谷本議長 皆さん、おはようございます。

加賀市議会議長の谷本でございます。

高校生議員の皆さんには、貴重な夏休みの期間にもかかわらず、御出席をいただきまして誠にありがとうございます。

これまで加賀市では、小学生や中学生を対象とした子ども議会を開催してまいりましたが、この高校生議会は初めての開催となります。

今回は高校生ということもあり、皆さんにとって、関わりの深い事柄や加賀市が抱えるさまざまな課題についての質問が事前に通告されております。これらの質問に対し、市長を初め当局の皆様には、本会議同様に御対応いただき、改めて感謝申し上げますとともに、前向きな答弁を期待しております。

さて、高校生議員の皆さんにとって、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられる法律が施行され、これから市政、県政、国政へと考えていく機会がふえていくことになろうかと思えます。本日は、日ごろから加賀市に対して抱えている疑問や意見について、市長、教育長を初め担当する部長が、直接心を込めて答えていただける貴重な機会であります。自分の質問に対する答弁だけでなく、ほかの高校生議員の質問とその答弁にもしっかりと耳を傾けて、一人一人の加賀市政に対する視野を広げる機会にさせていただきたいと思えます。皆さんの持つ若い感性と視点から、自分の夢や希望を交えた率直な意見をはつらつと発言していただくようお願いいたします。

本日の高校生議会が、皆さんにとって有意義な、そして充実したものとなりますよう心から期待し、加賀市議会を代表しての挨拶といたします。

高 校 生 議 会

○議長（山本恵亮さん） ただいまから加賀市高校生議会を開会いたします。

本日、高校生議長を務めます大聖寺高校2年、山本恵亮です。よろしく申し上げます。

それでは、本日の会議を開きます。

これより、私たちが暮らすふるさと加賀市の将来やまちづくりについて、私たち高校生の視点から、加賀市政に対する一般質問を行います。

通告がありましたので、順次、発言を許します。

中道 唯さん。

○中道 唯さん 加賀高校2年、中道 唯です。

高校生議会の最初の質問者として大変光栄に思っております。当局の明確な御答弁をお願

いし、最初の質問に入ります。

まず、視覚障がい者に優しいまちづくりについて質問します。

私が疑問に思ったのは、視覚障がい者用信号機について、大通り以外の横断歩道にはその機能がついていないということです。その機能は、視覚障がい者の方のためにつけられていると思いますが、大通り以外のところでも必要な方はいるし、そのような機能がついていないところを通るときにすごく不安になると思います。町を歩いている、小学校やスーパーの前にある横断歩道にその機能がついていないので、危険ではないかと思うことが多々ありました。もっと市全体で視覚障がい者の方に配慮していくことが大切だと思います。

視覚障がい者の方に優しいまちづくりについて、どのような取り組みをお考えですか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 おはようございます。

いつもと違う議場の風景でありまして、誠に新鮮な雰囲気は議場いっぱい漂っております。高校生の皆さん方には若干緊張の面持ちでありますけれども、どうかひとつ思いのたけをぶつけていただいて、活発な議論をさせていただければというふうに思っております。

視覚障がい者に優しいまちづくりについてお答えをしたいと思います。

初めに視覚障がい者用信号機についてであります。

加賀市内の信号機について大聖寺警察署に確認をいたしましたところ、本年7月末現在、市内には165カ所に信号機が設置をされております。このうち視覚障がい者用の音響式信号機は29カ所で、その割合は約17.6%となっております。また、全国の音響式信号機の割合は、直近、本年3月末現在であります。警察庁のデータから算出しますと、約9.4%でありまして、加賀市は比較的、音響式信号機の設置が進んでいるものと考えております。

より多くの信号機を音響式にすることが理想と考えておりますけれども、信号機を管理している警察署にお聞きをいたしましたところ、信号機の近くに住まいのある方が音に悩まされる場合もあることから、音響式信号機の設置については、周辺状況を調査した上、視覚障がい者の利用頻度が高い場所や、また公共施設に近い場所を優先的に設置しているとのことでありました。

市といたしましては、視覚に障がいのある方の安全面に配慮する観点からも、警察署に対して、音響式信号機の積極的な設置をお願いしてまいりたいと考えております。

次に、視覚に障がいのある方に優しいまちづくりのための取り組みについてであります。

市では、平成27年4月に障がい者福祉を推進するための障がいのある人のサポートプランを策定しておりまして、その基本理念として「障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが尊重され、共に参加し、共に暮らし、「あたりまえの生活」ができるまちづくり」を掲げております。また、平成28年4月には、障害者差別解消法が施行されております。障がいを理由とする差別的取扱いの禁止や障がいのある人への合理的配慮などが求められています。

こうしたことから、市では障がいに関する知識の普及や理解の促進を図るため、講演会の

開催や障がい者団体と地域の支援者、行政等が障がいに対する理解や障がいのある人への支援について意見交換する、よろしくトークなどを開催しております。このよろしくトークでは、加賀高校の皆様にも参加をいただいております。また、平常時の見守りや災害時に障がい者や高齢者など、援護が必要な人を地域で支援するための地域見守り支えあいネットワークの体制整備なども行っているところでもあります。さらに、本市では、本年3月に北陸で初めて手話言語条例を制定しております、手話への理解促進や手話の普及などに取り組んでいくこととしております。

このような取り組みを実施し、今後も視覚障がいや聴覚障がいといった障がいの種別にかかわらず、障がいのある人に優しいまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 中道 唯さん。

○中道 唯さん 次に、中学校のスクールバスについて質問します。

通学手段についてですが、小学校は家から歩いて行ける距離にあることが多いので歩いて行けました。しかし、中学生になると、大体の中学校はいくつかの小学校が統合されているため、中学校から遠い地区の生徒は、通学するのにとても時間がかかり、大変だと思います。自転車で通学しなければいけない生徒もいますし、遠くから通う生徒だと、自転車だったとしても大変になります。さらに下校時は、部活動の後なら外も暗く、道も危険が多いと思います。

このようなことがほかのところでもあると思うので、学校ごとにスクールバスがあればよいと思うのですが、そのことについてはどのようにお考えですか。

○議長（山本恵亮さん） 山下教育長。

○山下教育長 中学校のスクールバスについてお答えいたします。

現在、市内には山中小学校区に2台、橋立小学校区に1台、合計3台のスクールバスがあります。これらのスクールバスは、小学校の統廃合によって、これまでの小学校区外への登・下校が必要となりました小学生を対象とするものであります。中学校区は、これまでほとんど校区の変更がなく、生徒が徒歩または自転車で通うことができることを原則として設定されております。

そのため、通学に関する安全教育については、学校での指導だけでなく、関係機関とも連携を図り、安全確保に努めております。また、徒歩や自転車での通学ができない遠い距離の生徒がいる場合には、公共の交通機関を利用した通学を認めており、これに要する定期券での交通費の補助を行っております。

中学校においては、通学区域が広範囲であることやスクールバスへの乗車人数の問題、部活動によって下校に時間差がある、そういうため、中学校にスクールバスを配置するのは難しいと考えております。

以上であります。

○議長（山本恵亮さん） 中道 唯さん。

○中道 唯さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 中道 唯さんの質問及び答弁は終わりました。

菅 大希さん。

○菅 大希さん 大聖寺高校2年、菅 大希です。

中央公園までの道路について質問します。

大聖寺高校では、陸上部、テニス部、ソフトテニス部のほか多くの部活動が中央公園の施設を利用しています。放課後、中央公園まで主に自転車で移動するのですが、中央公園までの歩道がどれも急な坂道できつい上にがたがたであったり、雑草があったりするので、補修していただけないでしょうか。

以前、生徒が部活動の帰りの下り坂で、自転車で転倒してけがをしたこともあります。できれば坂が緩やかになればよいのですが、何かよい方法はないでしょうか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 中央公園までの道路につきましては、坂の勾配を緩やかにすることは、地形的制約から難しいことを御理解いただきたいと思います。

歩道部分の凹凸につきましては、街路樹の根の影響を受けているものがほとんどであり、危険と判断した箇所から随時補修しているところでもあります。また、雑草につきましては、現場の状況を確認しながら除草作業を行っております。

なお、自転車は軽車両でありまして、車道の左側通行が原則となっていることから、歩道を自転車で通行する際は、一旦自転車からおりていただいて、押して通行していただきますようお願いをしたいと思います。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 菅 大希さん。

○菅 大希さん 次に、先ほどの質問に加えて、通学路の街灯について質問します。

私は中学生のとき、塾からの帰り道で暗くて足元があまり見えなくて転んでしまったことが何度かあります。私のほかにも、通学路でこのような経験をする人が何人もいます。錦城小学校の近くも街灯が少なく暗いと言う生徒もいます。夜の道が暗くなってしまうと交通事故だけでなく、いろいろな事故が起こると思います。最近、不審者が多くなっていると聞いたので、不審者の被害をなくすためにも検討してください。

LEDの街灯はとても明るく省エネだと聞いています。現在の市内の街灯のLED化率はどうなっていますか。また、今後、街灯をふやす予定はあるのかどうか教えてください。

また、石川県は冬の時期は地面が凍ってしまうので、暗いといろいろなことが不便だと思います。私は野球をしていたので、夜遅くまで練習してから帰るときが暗くて怖かったので、ぜひ改善してほしいと思います。

これで終わります。

○議長（山本恵亮さん） 代工市民生活部長。

○代工市民生活部長 通学路の街灯についてお答えいたします。

街灯は夜間の事故や犯罪を未然に防止し、安全・安心なまちづくりのために大きな役割を果たしております。また、LED照明は、消費電力が少ないことや耐久性にすぐれていること、維持管理経費が削減できるなど、いくつもメリットがあります。一方で、街灯の設置場所につきましては、農作物の生育に悪影響を及ぼさないようにすることや、住宅付近においては夜間に明る過ぎないようにするなどの配慮が必要となります。このようなことから、通学路の街灯も含め市内の街灯については、町内会において計画的に設置し、管理することとしております。

御質問の市内のLED化率であります。平成28年度末現在で、市内全町内会が管理する街灯の総数は約8,000灯と見込んでおり、そのうち全体の15%である約1,200灯がLED化されております。

市としましては、今後も町内会が街灯を設置する際や、蛍光灯からLED照明に切りかえる際、1灯当たり1万2,000円を上限とした工事費の50%の補助や、電気料についても助成を行うなど、積極的に支援することで安心・安全なまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

部活動や塾などで帰りが遅くなる場合は、事前に懐中電灯など、明かりを用意したり、できるだけ明るい道を通るなど、夜間の通行には十分気をつけていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 菅 大希さん。

○菅 大希さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 菅 大希さんの質問及び答弁は終わりました。

黒木真衣さん。

○黒木真衣さん 大聖寺高校2年、黒木真衣です。

バス停の増設について質問いたします。

私たちが住んでいる地域にはバス停が非常に少ないと思います。特に中央公園行きのバスが少ないという意見がありました。中央公園を利用されるのは、私たちだけではなく地域の人々や遊びにくる子供たち、パークゴルフをされる御年配の方までさまざまです。

しかし、中央公園に行きたくても、車がない人や歩いて行くのには遠過ぎたりと、なかなか行けない人が多いはずで。

そこで便利なのがバスです。家の近くにバス停があればすぐに乗ることができるのです。地域の活性化のためにも、バス停やバス路線をふやしていただければと思います。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 バス停やバス路線の増設についてお答えをしたいと思います。

初めに生活バス路線についてであります。市内には加賀温泉バス株式会社が温泉山中線、温泉片山津線、温泉大聖寺線、山代大聖寺線、吉崎線の5路線を運行いたしております。株式会社まちづくり加賀がキャンパス動橋・橋立循環線の1路線を運行しております。

中央公園への路線につきましては、大聖寺地区と加賀温泉駅を結ぶ温泉大聖寺線が1日14便運行されており、松が丘側に中央公園口停留所を設けております。この路線は、平成27年3月に運行を開始し、利用者数は平成27年度が2万2,576人、平成28年度が2万8,649人と、昨年度は対前年比で26.9%の伸びということでありました。

市民の移動手段として定着しつつあると感じておりますが、まだまだ周知不足の感もあります。引き続き、市民の皆様への周知やその利用促進に努め、パークゴルフなどで中央公園を利用される方々にも御利用いただければと思っております。

御要望のありました路線バスの停留所の増設と増便につきましては、その利用状況等を踏まえて、加賀温泉バス株式会社と協議してまいりたいと考えております。

また、地区によっては加賀温泉駅での乗り継ぎが必要となりますが、乗合タクシーを利用することで、市内どこからでも中央公園へ行くことができます。乗合タクシーは各町に停留地点を数箇所設けておりますので、自宅から比較的近い場所で乗車することができます。こちらにつきましても、皆様方への周知とその利用促進に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 黒木真衣さん。

○黒木真衣さん 次に、小中学校のクーラーについて質問いたします。

どうして小・中学校にはクーラーが少ないのでしょうか。節電のため、経費を抑えるためなど、理由はいろいろあると思いますが、小・中学生、主に小学生は熱中症になる確率が非常に高くなってしまっているのではないのでしょうか。

私たち高校生は熱中症にならないよう、小まめに水分を取ったりして熱中症を予防していますが、小学生はそうはいきません。自分の体調をしっかりと管理できる小学生はほんの一握りだと私は思います。クーラーがついていないことによって、そのリスクは高まります。温暖化の影響で年々暑さがひどくなっており、去年も熱中症で亡くなった方がたくさんおられます。それにしっかりと学習環境をつくってあげなければなりません。暑い中、汗をかいて水分を奪われつつ勉強するには無理があり、集中力も続いたものではありません。

そのため、できるだけ早く小・中学校にクーラーを設置していただくよう御提案いたします。

○議長（山本恵亮さん） 山下教育長。

○山下教育長 小中学校のクーラーについてお答えいたします。

現在、市内の小・中学校で冷房化されているところは、小学校が19校のうち3校、中学校が6校のうち3校であります。

教育委員会としましては、学校の冷房化は、よりよい学習環境の整備を進める上で優先度が高いと考えており、重点的に整備を進めているところであります。その整備順番といたしましては、高校受験に向けての学習環境を整えるため、中学校から優先し整備を進めることとしております。今年度は片山津中学校で工事を行っており、来年度は山中中学校での工事を予定しております。

また、小学校については、自衛隊飛行機の騒音によって、授業中に窓を開けられない地域の学校から行うこととしております。今年度は片山津小学校で工事を実施しており、来年度以降も順次整備をしていくこととしております。

近年、地球温暖化の影響からか、猛暑日がふえております。熱中症への予防として、小・中学校の冷房化は重要であり、計画的かつ着実に進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 黒木真衣さん。

○黒木真衣 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 黒木真衣さんの質問及び答弁は終わりました。

庄源優誠さん。

○庄源優誠さん 加賀高校3年、庄源優誠です。

イノシシ・猿・熊の対策について質問します。

最近、加賀市各地で熊や猿、イノシシなど、山に生息している野生動物たちが町におりてきて、人間が生活している場所に出てきているということを多く耳にします。

私の家は山のすぐそばなので、特に出現頻度が高く危険だと感じています。さらに、近所に小学生の通学路があるのですが、小学生たちの通学路は山のそばが多いので鉢合わせをしてしまったら、とても危ないと思います。

そのような状況について、柵を設置したり、みんなに鈴を配ったりしたらどうかと思うのですが、私たちを守るために、市として何か対策は考えていらっしゃるのでしょうか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 イノシシや猿、熊の対策についてお答えをしたいと思います。

イノシシや猿、熊などの害獣が出没して、自然環境や農林業、地域住民の生活にも大きな影響が出ていることは、御指摘のとおりであります。

加賀市におきましても、このような害獣の目撃情報は多数寄せられておりまして、駆除を含めた対策につきましましては、重点的に取り組んでいるところであります。イノシシにつきましましては、農作物への被害対策として、侵入防止の電気柵や恒久柵を延べ約110キロメートル、檻は70基余りを地元や猟友会と連携をいたしまして設置をいたしております。

猿や熊が民家近くで目撃された場合においては、人的被害を最小限に食いとめるため、檻を仕掛けて駆除するとともに、出没通報があった場合には、注意看板の設置や警察、猟友会、市職員によるパトロールを実施いたしまして、住民生活の安心・安全を図っているところで

あります。

集落周辺への出没防止の対策といたしまして、野生動物の近づきにくい環境づくりが重要であります。市では、特に山間地の住宅地周辺で、背丈の高い雑草や雑木を除去して、見通しをよくする緩衝帯整備事業を実施いたしております。また、地域での取り組みとして、餌になる野菜や果実を早めに取り除くことや、ヤブの草刈り、鈴やラジオなど、音の鳴るものを身に着けることも効果がありますので、今後も周知・啓発に努めてまいりたいと考えております。

なお、害獣の出没情報につきましては、防災メールで情報発信をいたしておりますが、今後は市のホームページへの出没マップの掲載や、将来的にはIoT技術も活用した取り組みができないか検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 庄源優誠さん。

○庄源優誠さん 次に、空き家対策について質問します。

空き家問題についてお聞きしたいです。

加賀市内では老朽化した空き家を時々見かけます。私の近所にも、草木にまみれた空き家があります。空き家は人が住んでいないので、害虫などが住みつきやすいのではないかと思います。やがて周辺に迷惑が及ぶこともあるかと思えます。また、老朽化しているため家が潰れてしまうかもしれないという危険や、不法侵入などの犯罪が起こってしまう危険性もあり、治安が悪くなるのではないかと心配です。私も時々子供たちが空き家に入ろうとしているところを見かけますが、窓を割ってまで入ろうとしているときもあります。

市として何か空き家問題への対策はしていच्छやるのでしょうか。

○議長（山本恵亮さん） 藏経済環境部長。

○藏経済環境部長 空き家対策についてお答えいたします。

御指摘のとおり、適切な管理がされていない空き家は、雑草の繁茂や害虫の発生による衛生環境の悪化、老朽化した空き家の倒壊による近隣への被害、不法侵入者による火災や治安の悪化等により、大きな社会問題にもなっており、市に寄せられる相談も多くなっております。

こうしたことから、国では平成27年に空家等対策の推進に関する特別措置法を、また市も昨年、加賀市空家等の適切な管理に関する条例を施行し、空き家の解消や活用に関する基本的な方針となる加賀市空家等対策計画を策定しました。

また、市内にある空き家の全数調査を実施し、973件の空き家のうち206件が問題のある空き家であると判明いたしました。現在、危険性の高い空き家を優先に立入調査を行っており、必要に応じて改修や解体等の助言や指導等を行いながら、危険な空き家の解消に向けた取り組みを進めております。しかし、改善が行われない場合等には、解体等の命令や解体等を市が強制的に行う行政代執行についても取り組んでまいりたい方針であります。

また、活用できる空き家につきましては、利用希望者に紹介する空き家バンクの充実を図るなど、利活用の取り組みも推進してまいります。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 庄源優誠さん。

○庄源優誠さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 庄源優誠さんの質問及び答弁は終わりました。

藤井鵬旗さん。

○藤井鵬旗さん 大聖寺実業高校3年、藤井鵬旗です。

バスの本数について質問します。

バスを利用している友人からバスの1日の本数が少ないという話を聞きました。その友人によると、バスの本数が1時間に1本や1日に1本か2本ということでした。この数では、学生が通学にバスを利用するときにあまりに不便だと思います。また、加賀市の年代層を考えると、やはり今までの本数では少な過ぎると思います。

このことについて、市長はどのような対策をお考えですか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 バスの本数についてお答えをしたいと思います。

先ほど黒木議員にお答えしたとおり、市内には生活バス路線として、加賀温泉バス株式会社が5路線を、また、株式会社まちづくり加賀が1路線を運行しているわけであります。

各路線の1日当たりの便数につきましては、温泉山中線が42便、温泉片山津線が10便、温泉大聖寺線が14便、山代大聖寺線が11便、吉崎線が8便、キャンバス動橋・橋立循環線が3便となっております。

市の地域交通体系でありますKAGAあんしんネットでは、幹線ネットワークとしての路線バスと面的ネットワークとしての乗合タクシーで、高校生や高齢者等の自家用車を運転できない方々の日常の移動手段を確保することとして、路線バスのダイヤにおいても、通学や通院利用にできるだけ配慮したものとしているところであります。

自家用車の普及や高校生の減少などによりまして、路線バスの利用者数は減少傾向にありますが、通学や通院時間帯における便数の確保や増便につきましては、今後の利用状況も踏まえながら、より利便性の高いものとなるよう、対応していきたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 藤井鵬旗さん。

○藤井鵬旗さん 次に、ゴミのポイ捨てについて質問します。

最近、加賀市は開発が進み、施設がふえて生活が便利になっています。さらに、外国人観光客がふえてきてにぎわいつつありますが、それに伴い歩道などにごみのポイ捨てが目立つようになりました。ごみのポイ捨てが多くなると、交通の安全性が十分に守れなくなり、また、環境破壊にもつながると思います。そして、何より加賀市の景観が損なわれてしまい、

地域活性化の邪魔になると思います。すでに加賀市では、ポイ捨て条例が施行されていますが、それが十分に機能していないと思います。

このことについて、市長はどのような対策をお考えですか。

○議長（山本恵亮さん） 代工市民生活部長。

○代工市民生活部長 ゴミのポイ捨てについてお答えいたします。

加賀市総合計画の中では、「自然・歴史・伝統が息づく 住んでいたい 来てみたいまち」をテーマに掲げ、ポイ捨て等のない美しいまちづくりを推進しております。

市では、ポイ捨てを防止するための啓発活動として、毎年10月をポイ捨て等のない美しいまちづくり推進月間と定めて、加賀温泉駅周辺の一斉清掃や啓発看板の設置、中学生によるスーパーマーケット店頭での啓発キャンペーンを行うなど、市と市民、事業者が一体となって、マナーアップの取り組みを実施しております。また、山中、山代、片山津の3温泉の総湯周辺において、ポイ捨てごみの調査や、昨年度から新たに外国人が見てもわかるポイ捨て防止を呼びかける看板の設置などの取り組みを実施しているところであります。

町なかでは、各町内会が定期的に清掃を実施しており、その際には、無料ごみ袋の配布や持込車両の借上料の補助、美化センター処理手数料の免除などの支援を行っております。

しかしながら、議員が今ほど述べられましたように、条例を制定し、事業を展開しておりますが、いまだにポイ捨てごみがなくなっていない状況であります。今後も、市民や観光客に向けて、ポイ捨て防止に向けた新たなポスターを製作するなど、美しいまちづくりを推進してまいります。

高校生の皆さんを初め市民の方々には、自分一人くらいという安易な気持ちで、ポイ捨てをしないよう心がけていただくとともに、ごみを見つけたら積極的に拾うなど、環境美化に取り組んでいただきたいと思っております。また、市や町の清掃活動などの機会には、ぜひとも参加をお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 藤井鵬旗さん。

○藤井鵬旗さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 藤井鵬旗さんの質問及び答弁は終わりました。

西出多希さん。

○西出多希さん 大聖寺実業高等学校3年、西出多希です。

大聖寺、南郷地区の衰退について質問します。

最近、保育園がなくなってしまうたり、市民病院が移転したりしています。将来的には、小学校も統合して幾つかにまとまってしまうという話を母から聞きました。この話を含め、大聖寺、南郷周辺にそういったことが多く見られると思います。

このまま統合が進み、点在していた公共施設が1箇所にとまとると、不便に思う人が必ずいます。それだけでなく、小学校や保育園が地域を明るくしていると思います。運動会や夏

祭りなどの行事が行われると、そこで地域住民の交流を深めることができます。なので、地域にそういった施設は残すべきだと思います。

統合してしまう理由と統合によって不便に思う人に対してどういった対処を取られますか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 大聖寺、南郷地区の衰退についてお答えをしたいと思います。

全国的に人口減少時代を迎えておりまして、本市におきましても、人口減少と少子化が進んできております。このため、保育園で集団保育ができない状況が生じているとともに、入園希望者の減少から南郷保育園など4保育園が閉園となっております。小学校におきましても、児童数の減少から複式学級が増加するとともに、菅谷小学校と黒崎小学校が閉校いたしております。また、昨年4月に旧加賀市民病院と旧山中温泉医療センターを統合し、加賀温泉駅前に加賀市医療センターを開院いたしております。

このように、保育園や小学校などの公共施設につきましても、本来の役割を十分に発揮できるよう、再編や統合、複合化などが求められる状況になってきております。その地域や地区における運動会や夏祭りを通じて、住民同士の交流が深まるとの議員の御指摘は、まさにそのとおりであると思っております。市といたしましても、地域コミュニティの維持、活性化が大切であると考えております。仮に地域から保育園や小学校がなくなったとしても、地区会館や町内集会施設など、既存のコミュニティ施設の一層の活用を図っていただき、これまで各地区で培ってこられた経験を生かしながら、多世代が交流できるまちづくり活動を展開していくことで、地域住民の交流を一層深めていただきたいと思います。

また、統廃合によって、不便を感じる住民の方々に対しての対応につきましても、小学生については、スクールバスを運行することで、児童の登・下校時の安全・安心を確実なものにするとともに、保育園においてもタクシーによる送迎支援を行っているところであります。加賀市医療センターなどへの通院につきましても、地域交通体系であるKAGAあんしんネットをより充実させることで、路線バスや乗合タクシーの利便性向上に努めていきたいと考えているところであります。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 西出多希さん。

○西出多希さん 次に、加賀温泉郷を利用した活性化プランについて質問します。

加賀市には知名度のある温泉が3つあります。私は観光客が特定の温泉に偏っているように見えました。なので、3つの温泉が協力して、加賀温泉郷をもっと活発にすれば、さまざまな人に楽しんでもらえる町になると思います。

例えば、3つの温泉をめぐるバスや、お勧めの観光スポットを温泉とセットでピックアップしてツアーを組んだりします。そうすれば、どこかに偏ることもなく、地元の方も観光客の方も楽しんでいただける場所になると思います。そうなれば、自然と温泉周辺の町も活性化し、加賀がもっとにぎやかになるのではないのでしょうか。

そこで、市のお考えをお聞かせください。

○議長（山本恵亮さん） 中村観光戦略部長。

○中村観光戦略部長 加賀温泉郷を利用した活性化プランについてお答えいたします。

山代、山中、片山津の3温泉には、国内外からたくさんの観光客が来訪されております。特に、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業を契機に誘客促進を強化するため、加賀市観光戦略プランを策定し、さまざまな施策に取り組んできたことにより、平成27年、28年における温泉地宿泊施設の観光入込客数は年間で約200万人となり、開業前から約20万人増加いたしております。平成28年の温泉地別内訳では、山代温泉が約83万人、山中温泉が約48万人、片山津温泉が約68万人となっております。

3温泉では、それぞれが独自のにぎわいイベントを実施し、食べ歩きや体験などが楽しめるメニューを企画するなど、地域の回遊性を高めながら魅力創出を図っており、加賀市では、その取り組みを充実させるための支援を行っております。現在、温泉地が連携した取り組みも強化しており、3温泉を包括する一般社団法人加賀市観光交流機構では、市内の温泉施設や観光スポットをめぐることができる加賀温泉郷パスポートを発行しているほか、市内を周遊するキャンバスに加え、EVレンタカーや電動アシスト付レンタサイクルを連動させ、施設等の入場利用、おやつスイーツがセットとなった便利でお得なECO乗りクーポンなども企画販売しております。

また、新・ご当地グルメ「加賀カニごはん」、新・ご当地スイーツ「加賀パフェ」などを市内各店で新たに提供し、ホテル観賞バスツアーやヒマワリ迷路探検、柴山潟での新しい湖上遊び、加賀海岸クルーズなどの体験観光も新たに企画しております。さらに、本年4月に日本遺産に認定されました北前船の船主集落としまして、全国的にも貴重な歴史遺産が数多く残る北前船の里「橋立」や、九谷焼美術館、山ノ下寺院群など、十万石の伝統や歴史・文化を身近に味わうことができる「大聖寺」などを活用した観光メニューづくりも進めております。

なお、観光客の方だけではなく市民の皆さんにも楽しんでいただけるようなイベントを企画し、ことし1月には市内の肉屋さんのおいしいコロッケや空揚げなどが一堂に会した加賀ブッチャーズフェスを片山津温泉で開催し大好評でございました。この8月27日には、山代温泉でも開催いたしますので、高校生議員の皆様もぜひ御家族やお友達と一緒に御来場ください。今までに食べたことのないようなイノシシ肉の料理なども提供いたしております。

加賀市としましては、3温泉の回遊性を高めることや加賀市全体での周遊観光の促進が、地域の活性化を図る上で非常に重要であると考えており、今後は、西出議員のような若い方々にもぜひ参画していただきまして、新しい発想・アイデアによる企画を積極的に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 西出多希さん。

○西出多希さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 西出多希さんの質問及び答弁は終わりました。

宮永杏莉さん。

○宮永杏莉さん 加賀高校2年、宮永杏莉です。

点字ブロックの管理について質問します。

私の地域の図書館の前には点字ブロックがありますが、その点字ブロックが削れています。自分で踏んでみましたが、凸凹がすり減っていて、凸凹とそうじゃないところの境目がはっきりしなくなっている部分もあり、大変危険だと感じました。目が見えない人たちのためにある物なのに削れていたら、その機能を果たさないのではないかと思います。事故やけががもっとふえる危険性もあります。

そのため、市がきちんと管理をしていく必要があると思うのですが、一斉点検などはどれくらいのペースで行っていますか。また、壊れた部分はすぐに直すべきだと思いますが、市内にたくさんある点字ブロックの管理を、市はどのように行っているのでしょうか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 点字ブロックの管理についてお答えをしたいと思います。

初めに中央図書館の正面に設置をしております点字ブロックについてであります。平成3年に開館して26年が経過していることから、歩行者の通行などにより自然摩耗したものと考えられます。図書館は、全ての市民が利用する施設であることから、今後、点検を実施した上で点字ブロックの修繕を行ってまいりたいと思います。

次に、点字ブロックの点検についてであります。公共施設の安全点検につきましては、各施設の管理者が建物等の管理をいたしておりますが、障がいのある人に対する配慮の観点からも、今後は、各施設の点検項目に点字ブロックの状態などを追加して、毎年定期的に点検を行っていきたいと考えております。

なお、広範囲に設置されております道路上の点字ブロックにつきましては、日常点検を実施しておりますけれども、お気付きの点がございましたら、市に御連絡をいただきますようお願いをしたいと思います。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 宮永杏莉さん。

○宮永杏莉さん 次に、お年寄の医療センターへの交通手段について質問します。

私の周りのお年寄りで、今までは自分で行ける距離にあった病院が統合してなくなってしまったため、自分で病院へ行くことができなくなっているというのを聞いたことがあります。病院の統合により、病院が遠くなってしまったため、逆に不便になっているという現状があります。家の近くにはバスが通っていないため、家族の人に送ってもらうか、タクシーを利用するしか病院へ行く手段がありません。家族に送ってもらうとしても、家族の都合が合わないときには、病院へ行くことを我慢しないといけないこともあり、とても不便です。

せっかく病院を統合し、いい病院をつくっても、行きたいときに行けなくては意味がないと思います。市は、このようなことについて、どのようなサポートをお考えですか。

○議長（山本恵亮さん） 菅本総務部長。

○菅本総務部長 お年寄の医療センターへの交通手段についてお答えいたします。

平成28年4月に旧加賀市民病院と旧山中温泉医療センターを統合して、加賀市のほぼ中央部である加賀温泉駅前に加賀市医療センターを開設しております。

こうした状況も踏まえて、通学、通院、買い物における交通手段の確保を図るため、路線バスによる幹線ネットワークと乗合タクシーによる面的ネットワークで構成する、新たな地域交通体系であるKAGAあんしんネットというものを整備しております。具体的には、路線バスでは、大聖寺から加賀市医療センター方面をつなぐ温泉大聖寺線の新設。また、塩屋・吉崎から大聖寺駅までをつなぐ吉崎線を、加賀市医療センターまで延伸しております。

こうしたことによりまして、市内5路線のうち4路線が加賀市医療センターに乗り入れることになっており、大聖寺、山代、山中、片山津地区に住んでおられる方は、路線バスでの通院が可能となっております。また、路線バスの利用が困難な地域の方々につきましては、新たな地域交通として、平成27年10月から市内全域を網羅する乗合タクシー、のりあい号というんですけれども、その運行を始めております。これによりまして、市内のどこに住んでいる方でも、地域交通の利用が可能となっております。

このKAGAあんしんネットにおける、路線バスや乗合タクシーを使っていただけるよう、今後も、さらなる利用促進に向け、より一層の周知に努めてまいりたいと考えております。また、お知り合いの方で、通院や買い物における移動手段などに困っている方がおられましたら、その方々に合った交通手段について、市のほうで御相談させていただきたいと思っておりますので、遠慮なく市までお問い合わせくださいということで、お願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 宮永杏莉さん。

○宮永杏莉さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 宮永杏莉さんの質問及び答弁は終わりました。

簾 和馬さん。

○簾 和馬さん 大聖寺実業高校2年、簾 和馬です。

加賀市の防災対策について質問します。

大地震や大雨の災害が起こったとき、ニュースではよく備蓄物資が足りていないということを知ります。大聖寺実業高校も避難所に指定されているとお聞きしましたが、本校に備蓄物資があると聞いたことがないのですが、本校までどのように備蓄物資を送るのですか。そして、市にどの程度の量を備蓄してあるか、市の物資の供給システムはできているのですか。

そして、僕たち生徒は本校が避難所になった場合、どのような行動をすればよいのですか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 加賀市の防災対策についてお答えをしたいと思います。

大規模な災害が発生した場合には、大勢の方々が一斉に避難されることに加え、道路や橋が被害を受け、生活物資の搬送が困難になる場合があることなどから、避難所において生活物資が一時的に不足することが考えられています。昨年、発生した熊本地震や東日本大震災のときにも、生活物資が一時的に不足することがありました。

加賀市では、災害に備え、水や食料、毛布など、避難所で必要とされる生活物資を計画的に購入するとともに、効率的な搬送が行えるよう市内の中心部に位置しております中央公園内の防災備蓄倉庫で備蓄をいたしております。備蓄をしている主な生活物資には、500ミリリットル入りの水が約1,200本、水でも調理することができるアルファーマイが1,100食、毛布が約1,400枚、乳児用の粉ミルク缶が約100缶などがあります。また、これらの備蓄とあわせ、飲料水製造会社や市内の大型小売店舗などと災害時の応援協定を結びまして、不足した生活物資を優先的に提供いただける体制も整えております。

御質問の中にもありましたが、現在、加賀市では、大聖寺実業高校を初めとする市内の61施設を避難所として指定をいたしております。このうち、大雨による水害が想定される一部の地域にある2つの施設には、あらかじめ最低限の生活物資を備蓄しておりますが、大聖寺実業高校を含む59の施設には、現在、生活物資を備蓄いたしておりません。このため、大聖寺実業高校に限らず避難所として開設された施設には、必要とされる生活物資の種類や数量を整理した上で、先ほど申し上げました防災備蓄倉庫や市内の大型小売店舗など、各所から市の職員が中心となり搬送することといたしております。

大規模災害発生時において、大聖寺実業高校が避難所となった場合には、高齢の方、体が不自由な方、けがをされた方、体調のすぐれない方など、さまざまな方が避難されることとなりますし、また、避難生活も長期化することが想定されます。このようなときには、生徒の皆さんの存在が極めて大きな力となります。

先生の指示のもと可能な範囲内で、学校内施設の案内や避難スペースの設営、生活物資の運び入れ、駐車場の整理、食事の配膳などに御協力いただくことが、円滑な避難所運営に結びつくとともに、避難者への元気づけにもつながっていくものと思っております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 簾 和馬さん。

○簾 和馬さん 次に、北朝鮮のミサイル対策について質問します。

石川県は北朝鮮から近く、実際に北朝鮮が発射したミサイルが日本海に落ちたりと、北朝鮮が発射したミサイルが、いつ過って石川県に向かって飛んできてもおかしくないくらい危ないことから、非常に不安に思っています。

国からはJアラートというものを利用して情報を伝達しますが、加賀市はそのような場合の緊急情報システムはどうなっているのですか。そして、僕たちはそのような場合、どのような行動をとり、避難すればよいのかなどの避難方法についてもお聞きしたいです。

また、市として国や県へミサイル対策を何か要望しているのですか。

○議長（山本恵亮さん） 菅本総務部長。

○菅本総務部長 北朝鮮のミサイル対策についてお答えいたします。

北朝鮮から発射された弾道ミサイルが日本に飛来する可能性があるとは判断された場合には、今ほどございましたとおり、国からJアラート、全国瞬時警報システムというものを通じまして、緊急情報が加賀市のほうに送信されます。

緊急情報を受信した加賀市では、瞬時に小・中学校や町民会館など市内61カ所に設置してあります防災行政無線の屋外スピーカーから高音のサイレンを鳴らして、市民の皆さんにお知らせすることとしております。また、皆さんがお持ちの携帯電話にも、緊急速報メールとして、弾道ミサイルの発射情報が伝達されることとなっております。

しかし、この弾道ミサイルは、発射されてから極めて短時間で日本に飛来すると予想されております。高音のサイレンが鳴った場合や携帯電話で弾道ミサイルの発射情報を受信した場合には、直ちに適切な避難行動をとって、ミサイル着弾時に予想されている爆風や破片などから身を守る必要があります。

このため、国から3つの適切な避難行動というものが示されております。

まず、1つ目として、屋外にいる場合は、コンクリート製のビルなど、できる限り頑丈な建物の中に避難する。

2つ目として、近くに建物がない場合は、物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭を守る。

3つ目として、屋内にいる場合は、窓から離れるか、窓のない部屋に移動することとされております。

万が一の際に、限られた時間の中で、冷静かつ速やかに行動するには、日ごろから、それぞれの状況に応じた適切な避難行動を知っておくことがとても大切です。市では、ホームページに、今ほど申し上げました適切な避難行動の詳細について掲載しておりますので、ぜひとも御確認いただきたいと思います。

なお、加賀市として、国や県に対し、ミサイル対策に関する避難訓練の実施などの具体的な要望は行っておりませんが、新聞報道にございました今月30日に、国、県、輪島市が共同して実施を予定している住民避難訓練の内容などを参考としながら、県下全体を対象とした、より広域的な避難訓練などが実施できないものか、近隣自治体や県に対して、相談してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○簾 和馬さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 簾 和馬さんの質問及び答弁は終わりました。

この際、暫時休憩いたします。

再開は、午前10時50分を予定しています。

（午前10時33分 休憩）

(午前10時50分 再開)

再 開

○議長（山本恵亮さん） 会議を再開し、休憩前の議事を続けます。

西出 大さん。

○西出 大さん 大聖寺高校2年、西出 大です。

電車の増便について質問します。

現在、電車の本数は1時間に1本です。一度乗りおくと、1時間待たないといけないのでとても不便です。東京や大阪のような都会ではないので、そんなに便数はふやせないと思いますが、せめて30分に1本くらいになれば、1時間に1本より全然便利になるし、待ち時間が減ったら非常にうれしいです。30分に1本が難しいのなら、学生が下校する18時から20時の時間帯や、土曜日、日曜日、祝日だけでも便数をふやしてほしいです。友達や周りの多くの生徒が、せめて30分に1本になってくれないかなという話をしています。

ぜひとも電車の増便をお願いいたします。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 電車の増便についてお答えをしたいと思います。

J Rが運行しております普通列車につきましては、金沢・大聖寺間では、上・下線合わせて1日48本が運行されているわけでありまして。市内の3駅では、朝夕の通勤・通学の時間帯は1時間当たり三、四本が、また、日中の時間帯では1時間当たり2本が運行されております。しかしながら、金沢・小松間では、1日83本が運行されており、金沢・大聖寺間に比べ、35本多く運行されているわけでありまして。

このような状況を受け、市といたしましても、市民の通勤・通学時の利便性の向上を図るため、昨年12月26日にJ R金沢支社に、小松駅で折り返し運転を行っている列車を大聖寺駅まで延伸するとともに、混雑の状況に合わせた車両の増結をしていただきたい旨の要望を行っております。J R側からは、利用状況を初め車両と乗務員の確保といった問題を踏まえ、検討するとのことでありました。

また、土曜日、日曜日、祝日につきましては、平日と同じダイヤで運行されておりますが、まずは休日の利用状況につきまして、J R側に確認をして利便性などについての検証を行いたいと考えております。

今後とも、機を捉え、継続して要望活動を展開してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 西出 大さん。

○西出 大さん 次に、体育施設の増加について質問します。

私は中学生のころ、部活動を引退した後に運動ができる場所が少なくて困りました。大聖寺には加賀体育館や児童センターがありますが、加賀体育館は部活動で学生たちが利用しているし、児童センターは小さな子供たちが遊んでいて利用しにくかったです。

今は、インターネットが普及していて家にこもる子供たちが多くなり、外で遊ぶ子供は少なくなったと思います。そこには手軽に運動できる場所が少ないということも影響していると思います。体育施設をふやすことは、子供たちの遊び方にも関わって大切なことです。あと、自分のような学生にとってもうれしいです。

ぜひ、体育施設をふやしてほしいと思います。その中でも、サッカー場をぜひつくってください。

○議長（山本恵亮さん） 山下教育長。

○山下教育長 体育施設の増加についてお答えいたします。

加賀市には、現在、スポーツセンター、加賀体育館、陸上競技場、水泳プールなど、19の体育施設がございます。しかしながら、利用時間によっては、ほかの利用者が既に使っていて、利用できないこともございます。このような場合には、類似した体育施設や比較的利用の少ないものもあることから、最寄りの施設は使えなくても、他のところが使える場合がございます。利用状況をお問い合わせいただき、あいている施設を使っていただくのも一つの方法だと考えております。

サッカー場の確保についてであります。現在、サッカーができる場所としましては、大聖寺グラウンド、山代グラウンドがあるほか、陸上競技場の一部を2年前に改修し、フィールドをサッカーに利用しやすくいたしました。橋立自然公園の運動広場については、一般のサッカーもできるように、昨年度、拡張の改修をしたところであります。また、旧黒崎小学校グラウンドを多目的の芝生広場として整備を進めておりますので、そこが新たに少年サッカーに使えるようになります。サッカーに関しましては、これらの場所を御利用いただきたいというふうに考えております。このほか、現在、整備を進めています運動ができる施設としましては、仮称ではありますが、橋立自然公園健康グリーンパークの建設を進めております。

市といたしましては、これらの施設によりまして、市民の皆さんに楽しく運動をしていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 西出 大さん。

○西出 大さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 西出 大さんの質問及び答弁は終わりました。

山廣彪吾さん。

○山廣彪吾さん 大聖寺高校2年、山廣彪吾です。

企業誘致について質問します。

今、加賀市では人口が減少しています。そして、このままいくと加賀市はなくなってしまうおそれがあります。

私は大聖寺高校の生徒ですが、学校周辺や駅周辺にはにぎわっている建物がほとんどあり

ません。そのためか、加賀市内の学校の人気は段々下がりつつあります。そこで、できるだけ加賀市民を外に出さないために、また、市外の人ができるだけ加賀市に来るように、企業誘致をして、まちを活性化したら人が集まるのではないかと思います。

例えば、大型商業施設のイオンモールなどのショッピングモールやアウトレットモールなどがあつたらよいと多くの生徒が思っています。また、映画館やライブハウス、ラウンドワンなどの娯楽施設も人気があります。ぜひとも企業誘致を御検討ください。

黙 禱

○**稲垣副議長** 高校生議会の途中でございますが、午前11時2分に長崎における原爆犠牲者の慰霊及び平和祈念の黙禱を行いますので、ここで一旦中断したいと思います。

間もなく館内放送が入りますので、皆様、今しばらくお待ちください。

なお、館内放送が入りましたら、皆様、御起立いただきますよう、よろしくお願いいたします。

[館内放送開始]

御来庁者の皆様、議員及び職員の皆さんに総務課からお知らせいたします。

間もなく72年前の8月9日に長崎に原爆が投下された時刻、午前11時2分になります。

長崎における原爆犠牲者の霊を慰め、恒久平和の実現を祈るため、ただいまから黙禱をささげます。

(全員起立)

黙禱。

(黙禱)

黙禱を終わります。

(全員着席)

[館内放送終了]

○**稲垣副議長** それでは、高校生議会を再開いたします。

議長、進行をよろしくお願いいたします。

再 開

○**議長（山本恵亮さん）** 宮元市長。

○**宮元市長** 企業誘致についてお答えをしたいと思います。

市民の働く場所をつくり、まちを活性化させるため、市では企業誘致に積極的に取り組んでおります。

最近の企業誘致といたしましては、新保町で小松ウオール工業株式会社が、宮町で株式会社ソディックが大規模な工場の操業を始めております。また、旧菅谷小学校にはエネックス株式会社が、分校町には株式会社エムケーエンジニアリングが進出をいたしております。

御提案のありました大型ショッピングモールなどの商業施設ができることは、まちのにぎわい創出や雇用の拡大、市民の買い物の利便性の向上など、地域の活性化につながると期待をされるわけであります。大型商業施設や娯楽施設を新しくつくる場合には、半径何キロメートルの範囲に何人の人が住んでいて、どれくらいの人を利用するかといった、いわゆる市場調査を行った上で、出店が計画、決定されると聞いております。加賀市の地理的条件や周辺の人口分布を考えると、大規模なショッピングモール等の立地は、条件的にはなかなか難しい状況にあるということであります。現状は、大きな都市に比べ、若者にとって魅力ある商業施設や娯楽施設が少ない状況ではありますが、先月27日には桑原町でスーパーホームセンターヤマキシ新加賀店がオープンをいたしております。

今後についてであります。北陸新幹線の延伸によりまして、加賀温泉駅が新幹線の停車駅となります。交通アクセスの利便性がさらに向上し、観光客や来訪者がふえ、交流人口の増加も見込まれることから、新幹線延伸には加賀温泉駅周辺を初めとして、まちの状況が大きく変わるようなビジネスチャンスでもあります。このような好機を生かして、市の活性化につながるような施設の誘致について、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 山廣彪吾さん。

○山廣彪吾さん 次に、北陸新幹線について質問します。

現在、北陸新幹線は東京から金沢まで開通しています。そして、2020年の東京オリンピックまでに金沢から福井までの開通を目標としていると聞きましたが、加賀市はいつごろ開通するのですか。

加賀温泉駅も現在工事中ですが、いつ完成し、どのようになりますか。北陸新幹線には「かがやき」と「はくたか」がありますが、加賀温泉駅にはどんな新幹線がとまり、東京や大阪までの所要時間はどのように変わりますか。

北陸新幹線開通に伴い、特急サンダーバードやしらさぎが廃止されるとも聞きましたが、2020年に福井まで開通したとき、関西から加賀市へ来るときは、福井で新幹線に乗り継ぎをしないといけないという不便さがありますが、それはどのように対応するのでしょうか。

また、新幹線開通でどのような効果が期待されていて、加賀市はどのように変わっていくのか教えてください。

○議長（山本恵亮さん） 眞田建設部長。

○眞田建設部長 北陸新幹線についてのたくさんの御質問にお答えします。

加賀市の新幹線開通は、福井先行開業はなくなり、2023年の春、敦賀まで一気に開通となります。残念ですけれども、東京オリンピックには間に合いません。現在工事中の加賀温泉駅も新幹線開通に合わせて開業する予定です。

また、新たにできる加賀温泉駅は、通勤・通学や普段生活の足として利用する市民の皆さんや、仕事や観光などで加賀市を訪れる旅行者の方々が、安全で使いやすく、加賀温泉郷の

玄関口としてふさわしいものとなるように、現在、検討・協議しているところです。

次に、加賀温泉駅に停車する新幹線の種類ですが、各駅停車の「はくたか」はとまりますが、「かがやき」につきましては、まだ停車駅が決まっておりません。これは新幹線開通後の営業主体となるJR西日本が今後決めることとなっており、市としましては、加賀温泉駅が「かがやき」の停車駅に選ばれるよう、官民一丸となって取り組んでいるところであります。

また、東京までの所要時間は約3時間となり、1時間程度の短縮となります。大阪までは約1時間45分となり、30分の短縮になりますが、全線開業時には、さらに15分程度短縮され、一気に大阪まで1時間30分につながると予想されております。

次に、新幹線への乗り継ぎへの対応ですが、敦賀駅での乗りかえを、新幹線ホームの下に在来線特急ホームを設けることで、乗りかえ時間の短縮を図り、利用者の利便を高めることになっております。

最後に、新幹線開通の効果と今後の加賀市についてであります。新幹線の整備により、新幹線の特徴である速達性、大量輸送性による効果がもたらされ、沿線地域の豊富で多彩な観光資源の魅力が高まり、人々の余暇活動の充実や広域的な活動が促され、生活の質が向上することが期待されます。

加賀市におきましても、外国人を含む観光入込客数の増加と、それに伴う観光消費額の増額による経済効果が期待されます。今後の加賀市は山代、片山津、山中の3温泉だけではなく、自然や歴史・文化など、特色のある各地区をネットワークしたコンパクトシティを目指し、その中心である加賀温泉駅はかなめであり、公共交通の結節地として、観光の玄関口として、にぎわいを創出する場として整備していく必要があると考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 山廣彪吾さん。

○山廣彪吾さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 山廣彪吾さんの質問及び答弁は終わりました。

山野下菜々さん。

○山野下菜々さん 加賀高等学校2年、山野下菜々です。

野焼きに対する市の対策について質問します。

私は、よく外で草などを燃やしている人を見かけます。学校にいても家にいても、燃やしているにおいがしてくることがあります。許可なくしている人もいます。それはだめなことなのではないのでしょうか。燃やすにおいて気分が悪くなったり、不愉快な思いをしたりする人もいると思うし、煙やにおいて周囲に迷惑がかかっていますし、火災につながることもあると思います。また、燃やすことによって二酸化炭素が出て、環境に悪影響もありますし、ダイオキシンなどが発生し、人体への影響も心配されます。

そこで、そういう勝手に燃やしている人に対して、罰則などはあるのでしょうか。また、

野焼きに対する対策として見回りなど、市として何か取り組みなどを行っているのかお聞きしたいです。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 野焼きに対する市の対策についてお答えをしたいと思います。

野外でごみを燃やすと、煙や悪臭による近隣住民とのトラブルだけではなくて、火事になる危険性やダイオキシン類などの有害物質の発生による健康への悪影響などが懸念をされております。廃棄物の処理及び清掃に関する法律では、野外におけるごみの焼却はもみ殻、あぜ草、枝の剪定など、農業や林業を行うために必要な焼却と、キャンプファイヤーや左義長など、例外的なものを除いては禁止されております。そのため、違法な野焼きを行った場合は、警察による検挙の対象となるだけではなくて、場合によっては5年以下の懲役、1,000万円以下の罰金、またはその両方が科せられることになっております。

市では、市民等から野焼きの通報があった場合、職員がすぐに現地に駆けつける体制をとっており、近隣住民の方々に危険を及ぼさないために、直ちに中止するよう厳しく指導しております。なお、例外的に認められるものについても、周辺的生活環境に支障が出たり、苦情の申し出があった場合には直ちに中止していただいております。

今後も、違法な野焼きを行わないよう、広報などを通じて周知をしてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 山野下菜々さん。

○山野下菜々さん 次に、河川等の美化について質問します。

最近、川や溝などにごみが捨ててあり、汚いと思うことが多いです。例えば、私の学校の近くにある動橋川や八日市川、駅の近くの用水路や側溝にはごみが目立ちます。ごみの種類は、たばこのポイ捨てやペットボトル、ジュースパックなど、さまざまなごみが落ちています。これはいろんな人が川や用水路に平気でごみを捨てているということなのだと思います。ごみを減らすために学校でも「加賀おそうじ隊」の頭文字をとって、KOT活動という名のもと、清掃やごみ拾いに取り組んでいます。でも、拾っても拾ってもまた捨ててあるような状態であり変わらないのが現状です。

そこで、このような状況の中で、市として河川の美化やごみ対策に対して、どのような取り組みをされているのかお尋ねいたします。

○議長（山本恵亮さん） 代工市民生活部長。

○代工市民生活部長 河川等の美化についてお答えいたします。

美化の取り組みとしまして、河川や用水路がある町、また大雨などで増水した後にごみが流れ着く海岸や柴山潟に隣接する町においては、ごみの回収や草刈りを行うなど、町内会で定期的に清掃活動を実施していただいております。

先ほどもお答えしましたとおり、市では清掃に必要なごみ袋の無料配布や持込車両の借上

料の補助、美化センター処理手数料の免除など、活動の支援を行っております。そのほか不法投棄禁止やポイ捨て禁止看板の貸し出しも行っております。

しかしながら、河川や用水へのポイ捨ては、加賀市に限らず大きな問題となっております。大事なことは市民一人一人がポイ捨てごみをなくす意識を持っていただくことであり、そのような中で、加賀高校の皆さんは加賀おそうじ隊の活動をされており、大変感謝をしております。

市としましては、清掃活動支援に加え、警察とともに不法投棄の監視パトロールや、また広報やホームページ、ポスターなどでポイ捨てをしないよう周知をしております。

ポイ捨てのない美しい加賀市を目指して、市民一丸となって日常的に取り組むことが重要であります。藤井議員の答弁の際にもお願いしましたが、今後とも、高校生の皆さんも環境美化への取り組みに、さらなる御協力をお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 山野下菜々さん。

○山野下菜々さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 山野下菜々さんの質問及び答弁は終わりました。

馬場先千紘さん。

○馬場先千紘さん 大聖寺実業高校3年、馬場先千紘です。

まず、ゴミの削減について質問します。

最近、加賀市も観光地として整備が進んでおり、以前と比べて便利になったところがふえたと感じます。しかし、整備が進むにつれて、ゴミの量がふえてきていると思います。加賀市がいろいろな面で便利になっているのは確かですが、このままゴミの量がふえ続ければ、資源の減少など、環境に害を及ぼすことになり、美化センターの焼却炉の更新も早まってしまい、市民の負担にもつながると思います。

加賀市では、ゴミの削減のため、どのような取り組みをしていますか。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 ゴミの削減についてお答えをしたいと思います。

観光地として整備が進むにつれまして、ゴミの量がふえ、環境に害を及ぼすのではないかと御懸念であります。この10年間のごみ削減の取り組みといたしましては、これまで燃えるごみとして処理をしていた生ごみ、プラスチック製容器包装、紙製容器包装などを分別することで資源化を促進してまいりました。また、ゴミ袋の有料化を行い、家庭から出る燃えるごみをおよそ30%減量いたしました。

こうした取り組みによりまして、10年前は約4万500トンあった市全体のごみ量が、平成28年度には約2万7,000トンまで減少しているところであります。また、事業所でのごみも少しずつ減少をしてきております。

このようにごみが減少した背景には、減らす、いわゆる「リデュース」、繰り返し使う

「リユース」、資源として再利用する「リサイクル」といったごみの減量化・資源化に向けた意識が、市民や事業者に浸透してきたことによるものと考え、その成果といたしまして、平成27年1月に有料ごみ袋の料金を値下げしたところであります。市といたしましては、美化センターの延命化を目的に、さらなるごみ減量化・資源化を進めるため、今年度、一般廃棄物処理基本計画を策定いたしまして、資源循環等の方針を定めることといたしております。

今後は計画を実践していくことで、馬場先議員がお考えのように、ごみ量を減らして環境の悪化を防ぎ、あわせて環境美化センターの延命化を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 馬場先千紘さん。

○馬場先千紘さん 次に、公共交通料金が高いことについて質問します。

友人から、バスの料金が高いという話を聞きました。その友人によると、特に山中から大聖寺間のバスの料金が、利用する人の年齢層に対して高いように感じるそうです。公共交通以外の移動手段がない人たちにとっては、生活上の死活問題となっています。これを改善するために、バスの料金を変更することはできるのでしょうか。

加賀市の考えをお聞きしたいです。

○議長（山本恵亮さん） 菅本総務部長。

○菅本総務部長 公共交通料金についてお答えいたします。

路線バスの料金は、バス事業者が国土交通省所管の運輸支局というところに申請した上限額について、国土交通大臣の認可を受ける「上限認可制」という仕組みになっており、その上限額以下であれば、バス事業者は運輸支局への届け出だけで、バス料金を任意に設定できるということになっております。

市内には、先ほど御答弁申し上げましたように、生活バス路線として、加賀温泉バス株式会社が温泉山中線を初めとして、5路線を運行しております。この5路線全ての路線で、乗車区間の距離に応じた料金体系を採用しており、その料金は150円から550円までの間での設定となっております。

例えばでございますが、山中温泉から大聖寺駅までのバス料金は440円となっております。この料金ですが、平成9年4月と平成26年4月の消費税率の引き上げに伴う改定のほかは、加賀温泉バス株式会社の経営努力や加賀市からの支援により、20年以上の間、市内のバス料金の値上げは行ってはならず、据置きということになっております。

このような状況を受けますと、バス料金の引き下げというのは難しいのではないかとこのように考えております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） 馬場先千紘さん。

○馬場先千紘さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 馬場先千紘さんの質問及び答弁は終わりました。

熊岡美海さん。

○熊岡美海さん 大聖寺高校2年、熊岡美海です。

通学路の歩道整備について質問します。

私は錦城ヶ丘に住んでいます。町から駅のほうへ向かうルートで自転車をこぐと、道のがたがたやひび割れ、段差が気になります。以前、途中の道の一部が改善され通りやすくなりましたが、また別の道も同じように補修していただけないでしょうか。実は多くの生徒が通学路の登・下校で同じ思いをしています。ほかにも雑草が生えていたり、ごみが落ちているところもあります。

また、錦城東小学校の付近など、歩道が狭いところもありますので、ぜひとも加賀市内3高校の通学路の歩道も補修・整備をお願いいたします。交差点やT字路などで危険な箇所には、カーブミラーの設置もお願いします。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 通学路の歩道整備についてお答えをいたします。

現在、市では通学路上での舗装の老朽化によるひび割れや段差、カーブミラー等の安全施設の破損につきましては、加賀市通学路交通安全プログラムに基づきまして、市内の小・中学校や教育委員会、警察、そして県を含む道路管理者が連携をいたしまして、合同点検を実施いたしております。この合同点検の結果よりまして、危険箇所の検討を行った上で対策を実施いたしておりますが、今後も事故につながらないように通学路の安全対策に努めてまいりたいと考えております。

ごみにつきましては、気づきましたらできるだけ拾っていただけるよう心がけていただきたいと思います。また、自転車利用は環境に優しく健康にもよい交通手段でありますので、歩行者や自転車が安全に通行できるよう自転車走行環境などの整備に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 熊岡美海さん。

○熊岡美海さん 次に、小野坂トンネルについて質問します。

通学路で小野坂トンネルを通る生徒がいるのですが、歩道が狭く、暗くてとても危険です。歩道は狭い上にがたがたで、自転車に乗っているとトンネルの壁にぶつかりそうになったり、車道に落ちそうになったりします。通行する車との距離がガードレールもないので、とても怖い思いをしています。

また、トンネルを出た後の歩道も狭く、急坂でカーブも深く、車が多いのでとても危険です。車もよく渋滞しているのですが、何とか安全な小野坂トンネルになるよう改善してもらえませんか。

○議長（山本恵亮さん） 眞田建設部長。

○眞田建設部長 小野坂トンネルの質問についてお答えします。

トンネル内は、熊岡議員の御指摘のとおり、歩道が1メートルと狭いことから、管理者である県は平成25年度から平成27年度にかけて、照明のLED化により、所定の明るさを確保しております。また、市でも先ほど市長がお答えしたとおり、歩行者や自転車が安全に通行できるよう自転車走行環境等の整備を検討しており、さらなる安全対策について、県に働きかけてまいりたいと考えております。

なお、自転車は軽車両であることから、車道通行が原則であり、歩道を自転車で通行する際は、一旦自転車からおりて、自転車を押して通行していただきますようお願いいたします。また、トンネルに入ると当然暗くなります。路面が濡れているときもあり、凍結しているときもあります。自転車でトンネル内を通行する際は、状況を判断し安全に通行していただきたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 熊岡美海さん。

○熊岡美海さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 熊岡美海さんの質問及び答弁は終わりました。

堂野悠斗さん。

○堂野悠斗さん 大聖寺実業高校2年、堂野悠斗です。

加賀市の除雪について質問したいと思います。

冬になると、雪を道路からどかすために除雪が始まりますが、そのときに大通りのほうはきれいに除雪されていますが、市道に入らない裏道などはあまり除雪が行き届いておらず、そこを通るお年寄りや小さい子供たちの視点に立って見てみると、とても雪があつて歩ける状況ではありません。

なので、現状の除雪体制は、どうなっているのかお聞きしたいと思います。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 除雪についてお答えをしたいと思います。

加賀市の道路除雪は除雪計画書の基本方針に沿って、車両交通量、物資の輸送、市民生活の安定などを勘案いたしまして除雪路線を定めて、幹線道路を優先して、次に生活道路はできる限り早い除雪を心がけております。

除雪は、交通量の多い幹線道路では2車線以上の確保、また、生活道路では1車線の確保で、状況により待避所を設置いたしております。市内の除雪路線延長は約460キロメートルであり、市内58社の業者により除雪を行っていただいております。除雪機械の台数やオペレーターの確保の問題等、行政が歩道を含め、市内全ての道路除雪をきめ細かく行うには限界があるわけであります。

近年の人口減少、高齢化等の問題もあり町内会での一斉除雪が難しくなってきておりますけれども、市民の御理解と御協力を得て、行政、町内会など、協力体制を維持していくことが必要であると考えております。ぜひ皆様のような若い力をお借りすることができればと考

えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 堂野悠斗さん。

○堂野悠斗さん 次に、自転車専用道路の拡充について質問します。

車には車道、歩行者には歩道があります。自転車には一部あるかもしれませんが、なぜ自転車専用道路があまり見受けられないのでしょうか。自転車は健康にもよいし、公害もまき散らしません。まして、加賀市は自転車発祥の地だとも聞いております。

そういう意味で、自転車専用道路の拡充をお願いしたいと思います。

○議長（山本恵亮さん） 眞田建設部長。

○眞田建設部長 自転車専用道路の拡充についてお答えします。

近年、歩道を通行する自転車が歩行者と接触し、大けがを負わせる事故が問題となっております。また、自転車事故の多くは歩道における車との出会い頭事故です。

このため、市では昨年度より自転車や歩行者が安全に安心して快適に通行できるよう自転車のまち推進計画の策定に着手し、今年度中に完了する予定です。その推進計画の一端としまして、加賀温泉駅前において、自転車だけでなく車にも自転車が通行する場所を認識できるよう、車道の左端に自転車通行帯を試験的に表示しております。

このような取り組みを進めながら、本計画に基づいて自転車通行帯などの整備に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） 堂野悠斗さん。

○堂野悠斗さん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） 堂野悠斗さんの質問及び答弁は終わりました。

アングロ・リュウさん。

○アングロ・リュウさん 加賀高校3年、アングロ・リュウです。

使っていない大型の施設や建物について質問します。

加賀市には、使っていない大型の施設や建物が、そのまま放置されているものが多くあると思います。例えば、温泉街などを通っていると目にとまる廃業してしまった旅館やホテルなどです。また、加賀温泉駅をおいたら、すぐに見える観音温泉という大きい施設もその一つです。

せっかくの大きな敷地や建物があるので、地域の活性化につながるようなものや、何か社会に貢献できる施設にするなど、うまく活用する方法はないのでしょうか。例えば、地域のコミュニケーションの場とし、活用することができないか。いろいろと複雑な権利関係等もあると思いますが、今のままでは何の進展もないのではと思います。

そのことについて何か取り組みや活用策などはありますか。市の方針をお聞きいたします。

○議長（山本恵亮さん） 宮元市長。

○宮元市長 使っていない大型の施設や建物についてお答えをしたいと思います。

市内には温泉街の廃業旅館や閉館をした観光施設があり、大きな敷地や建物がそのまま残っているものがあります。

市では、これまでも廃業した温泉旅館や使わなくなった施設の活用策を考え、実際に取り組んできております。片山津温泉では、廃業旅館を取得して、総湯や広場の整備を行ってまいりました。最近では、山中温泉で廃業旅館を取得・解体し、温泉街を見渡せる眺望広場の整備を進めております。

さらには、市の空き施設も、使い方を変えて活用する取り組みも進めております。例えば、旧加賀市民病院は、市の保健センターや子育て応援ステーション、市内の各種団体や専門学校が入居するかが交流プラザさくらとして活用をいたしております。また、民間の力を活用したものとして、旧菅谷小学校は企業を誘致することで工場に再生をすることができました。ほかには、民間事業者が廃業旅館などを取得して老人ホームなどの施設に活用している例もあります。

市といたしましては、引き続き、空き施設の活用を検討していくとともに、廃業旅館や閉館をした観光施設の所有者に対しまして、施設の適切な管理と新たな事業を行ってもらえないか、また売却などにより、次の事業者を引き継いでもらえないか、お願いをしているところであります。

また、民間事業者が空き建築物を改修または解体し、跡地が地域活性化に供される場合には、国の空き家再生等推進事業などの交付金を活用することも考えられることから、国や県と相談をいたしまして、この制度をうまく使うことで、空き施設などの有効活用につなげていければと考えているところであります。

以上です。

○議長（山本恵亮さん） アングロ・リュウさん。

○アングロ・リュウさん 次に、動橋駅の防犯対策について質問します。

私たちが利用する動橋駅は無人駅です。無人駅だと、さまざまな問題が起こりやすくなると思います。例えば、夜、誰もいないので利用者にとっては危なかったり、無賃乗車などの犯罪が起こったりする可能性があります。高校生などは部活動の後で暗くなったとき、誰もいないと怖い思いをすることもあります。そのため、駅員を配置させるなど、市としてJRに働きかけをしてほしいと思っています。

新幹線のこともとても大切な問題だと思うのですが、地元の方にも目を向けて、地域の安全や利用者の安全などについての防犯対策をしっかり考えていただきたいと思います。例えば、照明器具等をもっとふやして明るくするとか、防犯カメラをポイントごとに細かく設置または増設をして、利用者の安全をさらに確保するような方策をとってほしいと思います。

それらを考慮した上で、加賀市の今後の取り組みについてお聞きいたします。

○議長（山本恵亮さん） 代工市民生活部長。

○代工市民生活部長 動橋駅の防犯についてお答えいたします。

動橋駅は、昭和52年には1日平均約1,300人の利用者がありましたが、年々減少を続け、平成10年には1日平均約880人にまで減少しております。JRではこうした状況を受け、平成12年4月に無人駅としたものであります。

無人駅となったことを受け、平成12年7月から平成16年3月までの約4年間、動橋地区まちづくり推進協議会が主体となり、市からの補助金も活用しながら、動橋駅の管理・運営を行ってきました。その後、平成21年3月までの5年間、動橋地区まちづくり推進協議会が独自に駅の管理・運営を行ってきましたが、利用者のさらなる減少や町による費用負担が困難となってきたことから、平成21年4月以降、現在に至るまで、動橋駅は無人駅となっております。

現在の駅周辺の犯罪の発生状況などについて、大聖寺警察署に確認したところ、毎日、動橋交番の警察官がパトロールを実施しており、近年、犯罪は発生していないとのことであります。市としましては、要望の出ている駅構内を明るくすることや、また防犯カメラの設置の検討をしていただくよう、市からJRに対して申し入れを行いたいと考えております。

今後も、地元町内会や警察、防犯団体などと連携しまして、パトロールを行うなど、駅を利用する方々の安心・安全を確保してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山本恵亮さん） アングロ・リュウさん。

○アングロ・リュウさん 以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（山本恵亮さん） アングロ・リュウさんの質問及び答弁は終わりました。

高校生議員の加賀市政に対する一般質問は、全て終わりました。

以上をもって、本日の議事全部を終了いたしました。

高校生議会は、これをもって閉会いたします。

講 評

○稲垣副議長 高校生議長、高校生議員の皆様、お疲れさまでした。

ここで、宮元加賀市長から本日の講評をお願いいたします。

○宮元市長 山本議長を初め高校生議員の皆様方、長時間に渡りまして、活発な御質問をしていただきましたこと、まずもって感謝と、そして敬意を表したいなというふうに思っております。

大変、当初は緊張した面持ちで、表情もかたかったわけでありましてけれども、最後になりますと、皆様方の表情も少し和らいで、少し議場の雰囲気にもなれていただいたのかなと、そんなふうなことを感じたわけでありまして。

昨年、71年ぶりに公職選挙法が改正されまして、いわゆる18歳以上に選挙権が引き下げをされたということでありまして、高校生も選挙権を得られることになったわけでありまして。

そういう意味では、今回の議会の、このような試みというのは、新しく選挙権を得られる青年・女子の皆様方に対しまして、政治の機会に触れていただく意味におきましては、非常にいい機会であったのかなというふうに思っております。

講評ということですので、あえて申し上げますれば、質問のいろいろな中身、いろいろと拝見し、答弁をさせていただきましたが、身近な質問が比較的多かったかなというふうに思っております。でき得れば、青年よ大志を抱けとは言いませんけれども、この加賀市を将来どうしていったらいいのかと、まちづくりを我々はこういう思いでやっていきたいと思うけれども、どう思うんだと。そんなようなお話も、もっと積極的に聞ければよかったのかなと、そんなような思いを率直に思ったわけであります。

御承知のように、これからの社会は世界に類を見ないような日本社会が進んでいくというふうに言われております。一つは人口減少が急激に進んでいくという、いわゆる悲観的な見方。社会がどんどん縮小していくという見方であります。少子高齢化が異常なスピードで、どこの国よりも先駆けて進んでいくという見方が一つあります。

もう一つは、楽観的な見方とでも言えばいいのかもしれませんが、いわゆる人口縮小社会を補完する意味において、例えば、よくお聞きになられると思いますが、人工知能とか、AIとか、そういうイノベーションが急速に進んでいく。そして、その高い技術力が人口減少を補完していくという考え方が、実は一方にあるわけであります。最近、時より耳にいたしますけれども、車の自動運転の話がありますけれども、恐らくここ数年くらいの間に、車の自動運転というのは、実現するのではないかと私は思いますし、がんを初めとした恐ろしい病気も早い時期の間に、撲滅をされていくのではないかと思っております。そういう意味においては、まさに類例のない社会がこれから出現をしようとしているわけでありまして、ある意味、皆様方は、我々も含めてそうでありますけれども、非常に刺激的な時代に生まれているということであります。

人口縮小の話をしていただきましたけれども、これは出生率の問題も含めて、いろんな問題がありますけれども、しばらくは続いていくんだろうというふうに思います。そんな中で、我々地方自治体は、生き残りのために、我々も含めて議会の方々と一緒にスクラムを組んで、必死の思いで、今取り組んでいるわけであります。

皆様方は加賀市にとっては宝です。宝以外の何物でもないすばらしい人材であります。見聞を広めて世界に有していただくことも結構、世界中を飛び回っていただくことも結構でありますけれども、ぜひひとつ、力を蓄えて、そして加賀市に戻ってきていただいて、加賀市のために、またお力添えをいただけるような、そんな人材として育てていただければと思っております。我々の使命は、君たちにツケを残さないような、そんな社会をしっかりとつくり上げて、しっかりとバトンを渡していくと。そんなことだろうと思って、決意を新たに、きょうはさせていただいた次第であります。

長時間に渡りまして、議会に御参加をいただきましたこと、改めて御礼と感謝を申し上げ

まして、私からの御挨拶とさせていただきます。本当にきょうはありがとうございました。

○稲垣副議長 宮元市長、ありがとうございました。

本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございました。

これにて、高校生議会は終了いたします。

なお、高校生議員の皆様、市長、教育長、補佐役議員におかれましては、この後、記念撮影を行いますので、そのままお待ちください。

以上です。